

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月28日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770105860
法人名	社会福祉法人 宝生会
事業所名	あいする久世グループホーム
所在地	堺市中区東八田387-1 (電話) 072-278-0171

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成20年10月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	21人	常勤	20人, 非常勤 1人, 常勤換算 20.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40000・51000円	その他の経費(日額)	500円/1日	
敷金	有() 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,450円				

(4) 利用者の概要(平成20年10月16日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	4名	要介護2	9名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	喜多クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ケアハウスなどを運営する社会福祉法人が、入居者の高齢化や認知症状により、小規模のグループホームなら安心して暮らしてもらえるのではないかとこの思いから建設されました。田園風景の住宅街にある2階建ての3ユニットのホームで、中庭を挟んで併設のデイサービスセンターがあります。管理者は地元の出身で町内に詳しく、自治会に加入して会合にも出席し、地域との関係作りができています。近隣のお地藏様や公園などの散歩コースに恵まれ、季節のお花や果物、野菜の成長を見て楽しんでいます。また近所の方と道で挨拶を交わし、盆踊りや秋祭り、地域行事に参加して、地域にとけ込むよう取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	外部評価結果については職員間で共有しています。改善項目については、運営推進会議を2ヶ月に1回開催することや、地域包括支援センターから参加も要請しています。介護計画書の家族への説明と署名についても順次取り組んでいます。また、1年間で接遇の改善ができるよう目標を定め、取り組んでいます。自己評価については度々行うことを検討しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはフロアリーダーを中心に、職員も参加して検討し、管理者が取りまとめて作成しています。認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組む姿勢です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は規定を作成し2ヶ月に1度開催しています。会議メンバーとして、地域包括支援センター職員、自治会長、民生・児童委員、知見を有する方、利用者、家族、法人役員、管理者、職員が参加しています。また会議録も整備し、委員から出された要望も検討しています。委員より地域で作成した防災マップをいただき、グループホームを災害時の避難場所にできないかとの意見が出ています。また、地域の盆踊り時には、場所や椅子の確保をしてもらいました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回担当のフロアリーダーが、お便りで健康状態、金銭管理状況についての報告書を家族に送付しています。相談や苦情があれば家族へ状況を説明し、気になる問題があれば管理者を含めた話し合いや説明の場を設けています。利用者ほぼ全員の金銭管理を行っています。家族が来られたら、要望や意見を聞くようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、管理者が会合に参加して情報交換を行っています。また、秋祭りのだんじりが、ホーム玄関前で30分演じて楽しませてくれました。近隣の農家からお米を購入したり、収穫した野菜をいただいたりしています。また、グループホーム内にAED(自動体外式除細動器)を設置して、地域の方々と共に活用することを検討しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日々楽しく、自分らしく、ふれあいを大切に、心やすらぐ場所」をホームの理念として掲げています。住み慣れた地域でその人らしく、穏やかな生活を提供していくことを目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は総合玄関に掲示し共有しています。朝礼時に職員みんなで唱和しています。また、今年の職員目標として「和やか」を掲げ、日頃の業務に生かせるよう度々確認し合っています。またパンフレットにも明示しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会に加入し、会合は管理者が参加して情報交換を行っています。また、秋祭りのだんじりが、ホーム玄関前で30分演じて楽しませてくれました。近隣の農家からお米を購入したり、収穫した野菜をいただいたりしています。また、グループホーム内にAED（自動体外式除細動器）を設置して、地域の方々と共に活用することを検討しています。また地域の廃品回収にも協力しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてはユニットリーダーを中心に職員も参加して検討し、管理者がそれらをまとめて作成しています。評価の認識の共有を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。外部評価の結果についても共有しています。前回の評価結果で改善項目については、運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センターからの参加も得ています。介護計画書の家族へ説明と署名についても順次取り組んでいます。また、1年間で接遇の改善ができるよう目標を定め、取り組んでいます。自己評価については度々行うことを検討しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は規定を作成し、2ヶ月に1度開催しています。会議メンバーとして、地域包括支援センター職員、自治会長、民生・児童委員、知見を有する方、利用者、家族、法人役員、管理者、職員が参加しています。また会議録も整備し、委員から出された要望も検討しています。委員より地域で作成した防災マップをいただき、グループホームを災害時の避難場所にできないかとの意見が出ています。また、地域の盆踊りの時には、利用者の座る椅子の確保をしてもらいました。運営推進会議の規定に守秘義務を追加されてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に対して、事業所の事故報告や介護保険の更新等で連携しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回担当のフロアリーダーが、お便りで家族へ近況報告をしています。また健康状態、金銭管理状況については、家族の面会時に報告してサインを得ています。その他、相談や苦情があれば状況を説明し、気になる問題があれば管理者を含めた話し合いや説明の場を設けています。利用者のほぼ全員がホームで金銭管理を行っています。お金を使われない方についての今後の対応を検討することが望まれます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、要望や意見を聞くようにしています。寄せられた苦情や不満については管理者が誠意を持って対応しています。また、家族からの意見を踏まえ、今年度の目標として「和やか」で「穏やか」な接遇に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は設立後4年経過し、少し落ち着いてきました。新しい職員が入る時は業務マニュアルに沿って、スムーズに業務や利用者に馴染めるよう工夫しています。また職員の異動については、面会にこられた家族へ報告をしています。認知症の利用者にとって馴染みの関係は大切なことであり、今後も職員の異動を最小限に抑えることが望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は法人内で心肺蘇生法に関する研修があり、受講した職員はユニット会議で伝達講習しています。緊急時対応についての研修は検討中です。職員が個人的にホーム内の掲示板を見て研修に参加していますが、報告は行っていない状況です。	○	今後グループホームで年間計画を立て、年間6回「認知症」、「感染症」、「緊急時対応」の内容を含む研修を実施し、その内2回は外部での研修を受講することが求められます。また研修受講者は報告書を作成し、伝達講習等で受講内容を職員間で共有することが求められます。
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。堺市のグループホーム会合や中区のグループホーム間でも交流しています。近隣のグループホームとは職員間の研修を3日間実施してお互いの交流もしています。また、近隣のグループホームより運営推進会議に出席してもらうこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人がグループホームを訪問し、見学することがあります。また職員が自宅を訪問して馴染みの関係作りを行い、入院中であれば病院への面会も実施しています。職員や利用者とのなじみの関係作りに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から鍋が焦げたときの洗い方や、米のとぎ汁で大根を湯でることなどを教えてもらったり、おやつ作りやホーム行事に参加して共有したりしています。職員は月1回、ミーティングで利用者の望まれていることを話し合う機会を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、状況把握に努めています。利用者の言葉や表情から思いを読み取り、把握したことはユニット会議や連絡ノートで共有しています。利用者から外食の要望がある場合は、家族に相談しています。入居前の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、心身の状態などを職員全員が把握できるように心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、利用者や家族の意向、状況を反映した介護計画を作成しています。また、作成された介護計画は職員全体で共有し、日常のケアへの実践を行っています。しかし、家族等への説明を行った上で、同意の署名を得ていない計画書が一部見られました。	○	今後は、家族の了承サインを全員分得られる取り組みが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメント記録、モニタリング記録、介護計画の見直しについて話し合った記録はあります。しかし一部では見直しされた介護計画が作成されていませんでした。また、見直し時期について、6ヶ月毎、変化があったときはその都度見直すと決めています。定期的に行えていない状況です。	○	介護計画の定期的な見直しと作成が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	ボランティアによる踊りを月 2回デイサービスの利用者と 一緒に楽しんでいます。デイサ ービス事業所が休みの日には、 そこで喫茶店を開いて雰囲気 を味わったり、送迎車を活用 し利用者の外出支援を行って います。また、福祉専門学校の 実習生を受け入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医の受診を希望さ れる時や、専門医の受診につ いては、家族が同伴されてい ます。家族の都合がつかない 場合は職員が同行し、結果を 家族へ報告しています。定期 的なホームへの往診や訪問 看護といった医療体制も整 えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	終末期、重度化したときの 対応については重要事項説 明書に記入しています。家 族や利用者の希望につい てはできる範囲で支援し、 職員や医療関係者との連 携についても話し合ってい ます。今後の方針につい ても、ホームでできる可 能な範囲で支援していく ことを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重しています。職員の言葉かけは、その人に合わせた、やさしい雰囲気です。個人記録等は目に触れない所に保管しています。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて、法人と書面を取り交わし押印もあります。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、急かすことなく支援しています。ゆっくりと食事を取る方の横にさりげなく職員が着き、声かけを行っています。事業所としての日課はありますが、利用者の意向に合わせて支援し、見守ることにしています。気候の良い時は日光浴をする等、常に臨機応変に取り組んでいます。職員は利用者が過ごしやすい場所を把握しており、和室でくつろいだり、庭の花を眺めたりしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と夕食はホーム内で調理し、昼食は併設のデイサービスで調理された食事が届いています。職員は利用者と同じものを食べながら食事支援を行っています。調味料やおやつのお買出しについては近隣のスーパーへ出かけています。利用者は野菜を刻んだり、食器を洗ったりそれぞれできることをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週3回入浴しています。一人で1時間ほどくつろいで入浴を楽しんでいる方もおられます。その時は職員が利用者の昔話をゆっくり聞いたり、利用者も普段話せないことを聞いてもらうことで満足感を得ることができ、職員も大切な時間だと認識しています。希望すれば毎日入浴することもできます。入浴実施状況の記録もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の料理などを教えてもらったり、おやつ作りを楽しんだり、計算や漢字の練習を楽しまれたり、暑中見舞いや年賀状を書かれたりしています。本の好きな方は個別で購入して楽しまれています。外食でお寿司や刺身を食べるなど、利用者一人ひとりの好きなことを把握し、実現できるよう努めています。裏の畑で野菜作りを楽しむ方もあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は中庭で外気浴を楽しんだり、近隣の公園に散歩に出かけたり、天気の良い日は毎日近くにあるお地藏さんにお参りする利用者もいます。買い物、外食、園芸、芋掘りなどのレクリエーションも楽しんでいます。送迎車が空いている時間には、ドライブやプラネタリウム、水族館に行くこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	総合玄関には鍵をかけていません。ユニット玄関の鍵は中から押せば開く鍵になっており、誰でも押すだけで出ることができます。身体拘束をしない方針があり、拘束はありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署による協力を得て、避難訓練、消火器の使い方、誘導方法、避難場所の指導などを受けています。今年度は夜間を想定して避難訓練を実施しました。災害時マニュアルを作成し、職員全員が把握しています。しかし、非常用食料や水の備蓄について十分ではない状況です。	○	災害時に備えて、非常用食料や水などを2～3日分は備蓄することが求められます。また、グループホーム分として準備することが望まれます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士のアドバイスを受けてカロリー計算をしたバランスの良い献立です。食事摂取量については毎回確認し、記録をしています。水分摂取量については、毎回食事の折やティータイムの時に水分補給に気をつけ、脱水予防に努め記録しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には和風の庭園が作られ、入りやすい雰囲気です。広い中庭のスペースでは日光浴のための縁台を用意し、季節の花が咲いています。中庭とベランダには物干しスペースがあり、低い位置で利用者でも干しやすい工夫をしています。リビングには手作りのカレンダーもありました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はゆったりとしており、広い押し入れも設置されています。利用者は自宅から食器棚や手芸品、テレビ、タンス等思い出の品々を持ち込み、家族との写真や、自分で作った作品を飾っている方もいます。自分の居室で馴染みの品々に囲まれて、ゆったりと過ごされている様子がみられました。また、居室からは隣家の柿が実っているのが見えて、利用者の楽しみな風景となっています。		